

2013/1/16

柏の景気情報（平成24年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成24年12月分）

○ 調査期間 : 平成24年12月20日 ~ 12月27日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	97	60.2%
建設	45	28	62.2%
製造	35	19	54.3%
卸・小売	44	33	75.0%
サービス	37	17	45.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年12月の調査結果のポイント】

《 業況DIのマイナス幅が大幅に縮小 政権交代への期待大きく》

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.7(前月水準▲39.6)となり、マイナス幅が15.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同▲50.0)、製造業±0.0(同▲27.7)、建設業▲14.2(同▲20.6)、卸小売業▲54.5(同▲55.8)である。特に、サービス業はマイナス幅が44.2ポイントと大幅に縮小した。

【建設業】からは、「仕事量は増加しているが、受注単価は変わらず(塗装工事業)」、「施工件数、規模ともに前年と変わらないが単価が下がっているため売上高減少となっている。施工業者職人不足が続く来年1月からの物件の段取りに追われている。不況の影響で会社を清算、整理、転職した結果の人手不足、消費税値上げ前の駆け込み需要の影響からの忙しさと思われる。単価日程等が合わず断った現場の再度の依頼も数件出ているがやはり業者不足からと思われる(その他の職別工事業)」、「畳を新年に向けて新しくしたいというお客様が多くおり、個人向けの需要が拡大。原材料価格が上がり続けているのが悩みだが多くのお客様に畳のよさをお届けしたい(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「一部材料仕入れ単価の下落が始まったが下げ幅が少ないためコスト削減にはなかなかつながらない。値上げ前までは戻っていない。また、求人を出しているが応募者が少ない(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「業界的には前倒しのバーゲンを実施するところが多くなっているが、生産調整によりバーゲン対応商品が集まりづらくなっている。当社の高額商品もセール前は全く消化できなかったが割引した所単価2~4万のものがだいぶはけた。高額商品はやはりバーゲン待ちという感じ(婦人・子供服小売業)」、「12月に入ってもクリスマスや暮れのムードは見られず例年になく景気の停滞を感じます(花・植木小売業)」、「エレベータ事故が増え、注目度が上がったため管理意識も高まっているが、売上増につながるかはわからない。問い合わせは増えている。改修工事改善が多くなるのではと期待する(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「昨年と比較すると金土曜日が悪い。宴会単価が下がっている。予約時の人数が直前確認ではほとんど減少する等(酒場・ビヤホール)」、「お客様の減少傾向は止まってきました。価格は相変わらず下落しています。お客様の購買意欲はありますが契約までの期間は慎重になっており長引いています(不動産管理業)」、「今年もわずかですが年度末に向けた工事がいくつか芽が出てきた感じです。ただ単価が下落して、忙しくても利益が出ていないのが現状(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎政権交代

各業種から、「取引先企業による海外での生産計画が加速している中受注量の減少が見られる。新政権での内需拡大への経済対策に期待したい(一般産業用機械・装置製造業)」、「政権交代があり、自民党に戻り少々景気が戻っているが、長期的にはデフレ経済の中でインフレが起こるとい難い状況が待ち受けている気がする。地元でもデフレが起こる理由をみんなが考え、新たな取り組みが必要だと痛切に感じている(各種食料品小売業)」、「昨今の政局の変化など景気向上対策から期待も望まれます。少しでも上向いて取引拡大が出来るよう努力したい(食料・飲料卸売業)」、「政権交代でいよいよ消費税アップが具体的に近づくのでとてあえずは特需に期待しています(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎売上・受注増加

各業種から、「工事量・売上ともに増加しているが利益は思ったほどの増加無し。まだまだ上向きムードがないため来年に期待している(電気工事業)」、「決算が9月だが前々期と比較してみると売り上げが少々ですが向上しています(印刷業)」、「昨年、柏レイソル優勝セールを開催したこともあり、特価品売上が減少。ただ、クリスマス3連休などは曜日並びも良く、売上が前年を上回る日が多かった。12月度全体では、前年△1.5で推移(百貨店)などのコメントが寄せられた。

◎クリスマス商戦

各業種から、「冬物衣料の動きはよくない。寒い冬にはなったが売れているものは小物が中心。クリスマス関連では食品はなんとか昨年をクリアした程度。日程では3連休のため家庭でクリスマスにはぴったりだったはずだが振るわず(その他の各種商品小売業)」、「クリスマス商戦は直前に集中し22日(土)~24日(月・祝)の3日間対比で102.2%という結果であった(その他の各種商品小売業)」、「クリスマス商戦は例年と比べ予約数が減り当日売りが増えたが客単価は減り厳しい結果になった(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲29.8	▲14.2	▲11.7	▲48.5	▲35.2
8月	▲38.0	▲24.1	▲26.3	▲60.0	▲29.4
9月	▲36.9	▲28.0	▲23.5	▲58.8	▲18.7
10月	▲32.6	▲18.5	▲18.1	▲51.4	▲35.0
11月	▲39.6	▲20.6	▲27.7	▲55.8	▲50.0
12月	▲23.7	▲14.2	±0.0	▲54.5	▲5.8
見通し	▲20.6	▲14.2	▲15.7	▲36.3	▲5.8

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.7(前月水準▲39.6)となり、マイナス幅が15.9ポイント縮小した。

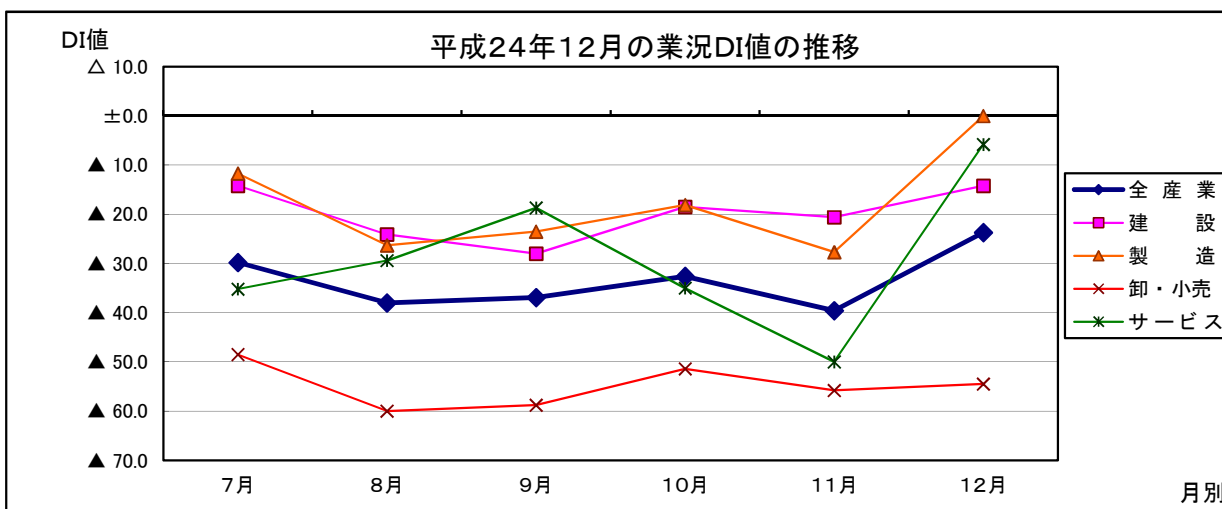
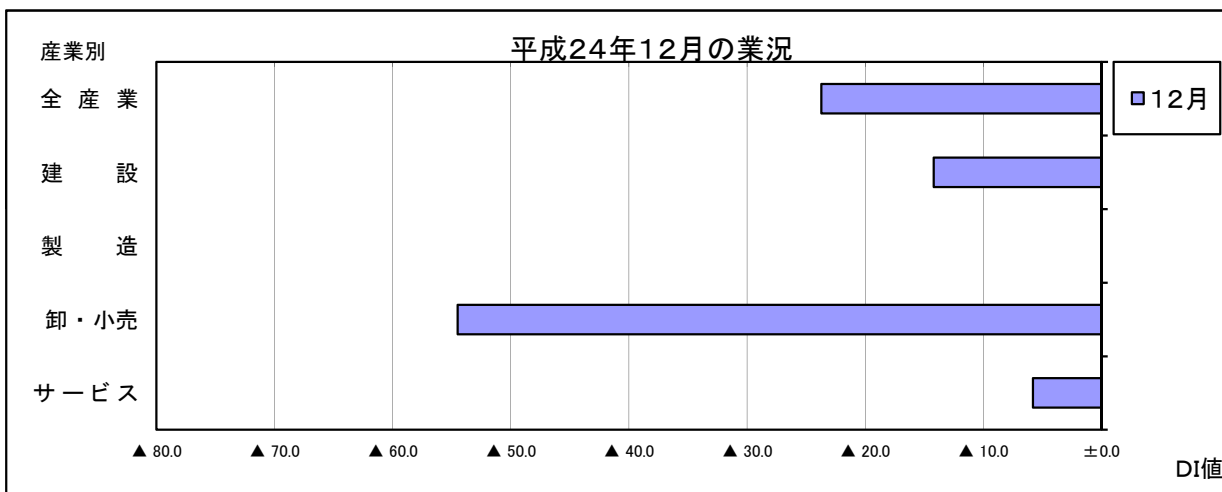
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同▲50.0)、製造業±0.0(同▲27.7)、建設業▲14.2(同▲20.6)、卸小売業▲54.5(同▲55.8)である。特に、サービス業はマイナス幅が44.2ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.6(前月水準▲33.6)となり、マイナス幅が13.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同▲35.0)、卸小売業▲36.3(同▲52.9)、製造業▲15.7(同▲27.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が29.2ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲14.2(同▲13.7)である。

平成24年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲29.8	▲38.0	▲36.9	▲32.6	▲39.6	▲23.7	▲20.6(▲33.6)
建設	▲14.2	▲24.1	▲28.0	▲18.5	▲20.6	▲14.2	▲14.2(▲13.7)
製造	▲11.7	▲26.3	▲23.5	▲18.1	▲27.7	±0.0	▲15.7(▲27.7)
卸・小売	▲48.5	▲60.0	▲58.8	▲51.4	▲55.8	▲54.5	▲36.3(▲52.9)
サービス	▲35.2	▲29.4	▲18.7	▲35.0	▲50.0	▲5.8	▲5.8(▲35.0)



【平成24年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.6(前月水準▲27.7)となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小した。

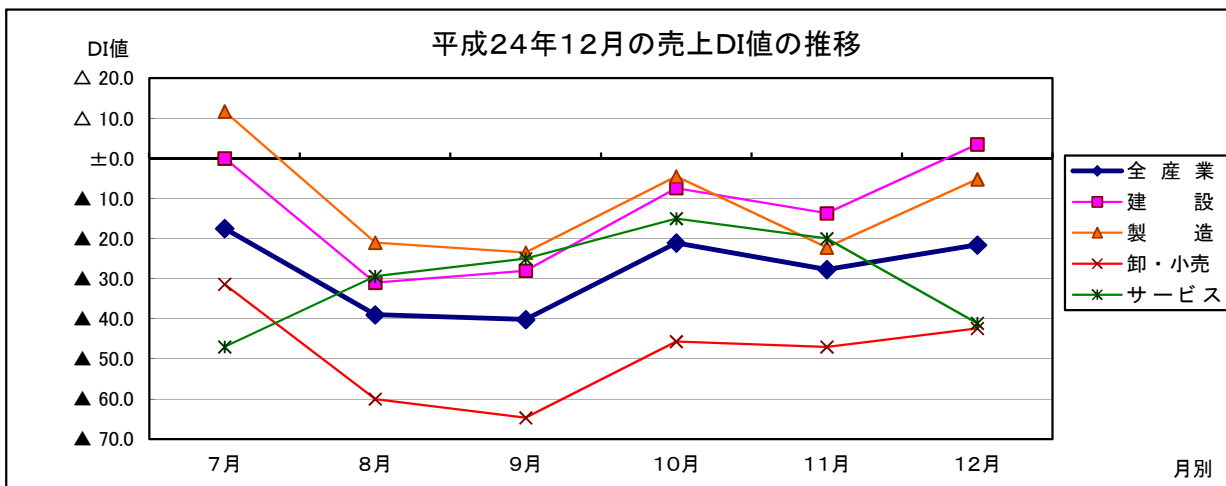
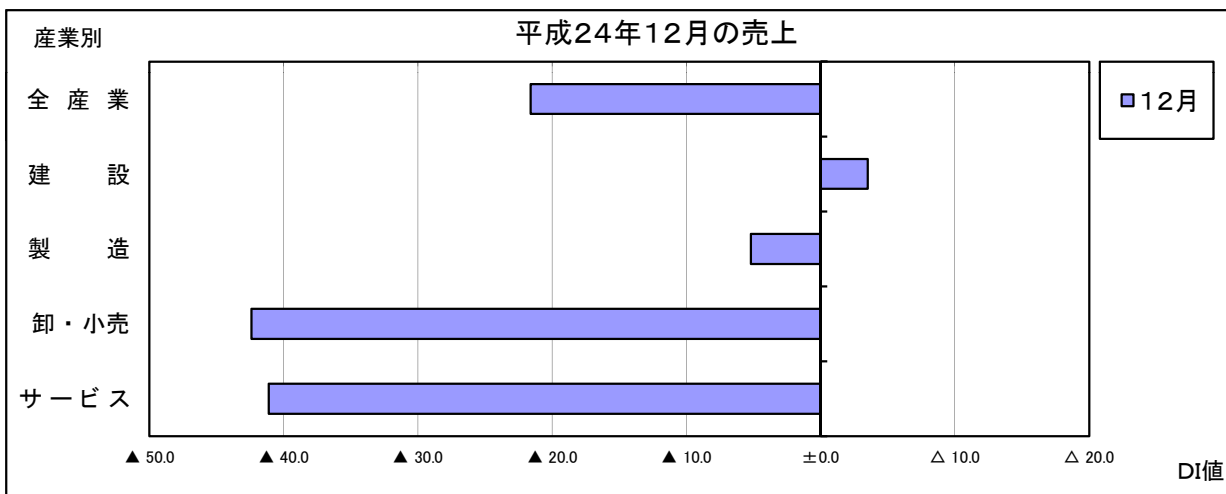
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業3.5(同▲13.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.2(同▲22.2)、卸小売業▲42.4(同▲47.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲41.1(同▲20.0)であり、マイナス幅が▲21.1ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.5(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が▲11.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲26.3(同▲33.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲7.1(同17.2)、サービス業▲5.8(同5.0)であり、特に建設業は▲24.3ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲30.3(同▲20.5)である。

平成24年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲17.5	▲39.0	▲40.2	▲21.1	▲27.7	▲21.6	▲18.5(▲6.9)
建設	±0.0	▲31.0	▲28.0	▲7.4	▲13.7	△3.5	▲7.1(△17.2)
製造	△11.7	▲21.0	▲23.5	▲4.5	▲22.2	▲5.2	▲26.3(▲33.3)
卸・小売	▲31.4	▲60.0	▲64.7	▲45.7	▲47.0	▲42.4	▲30.3(▲20.5)
サービス	▲47.0	▲29.4	▲25.0	▲15.0	▲20.0	▲41.1	▲5.8(△5.0)



【平成24年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.8(前月水準▲40.5)となり、マイナス幅が13.7ポイント縮小した。

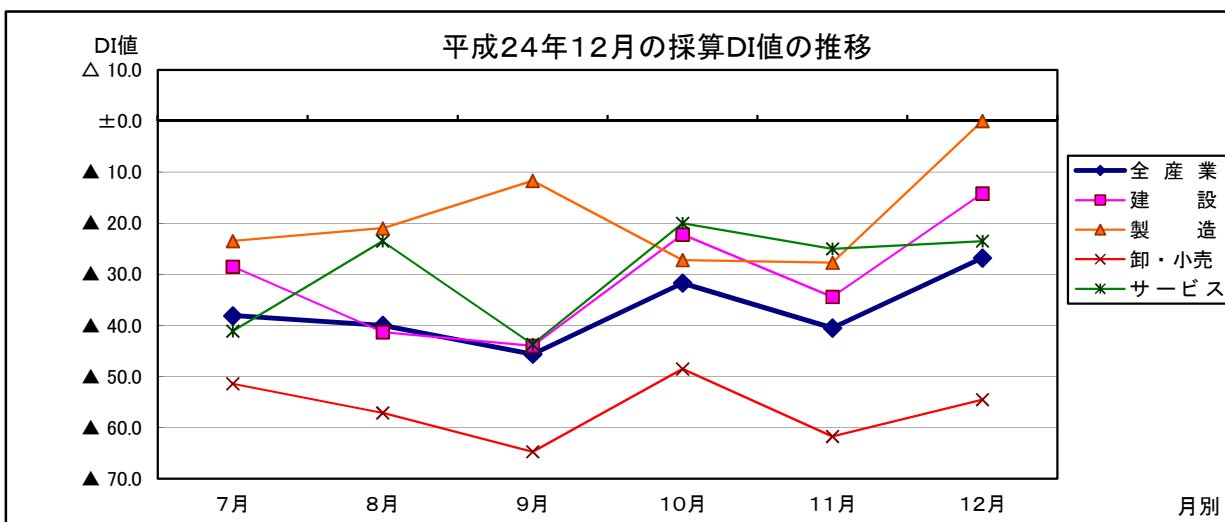
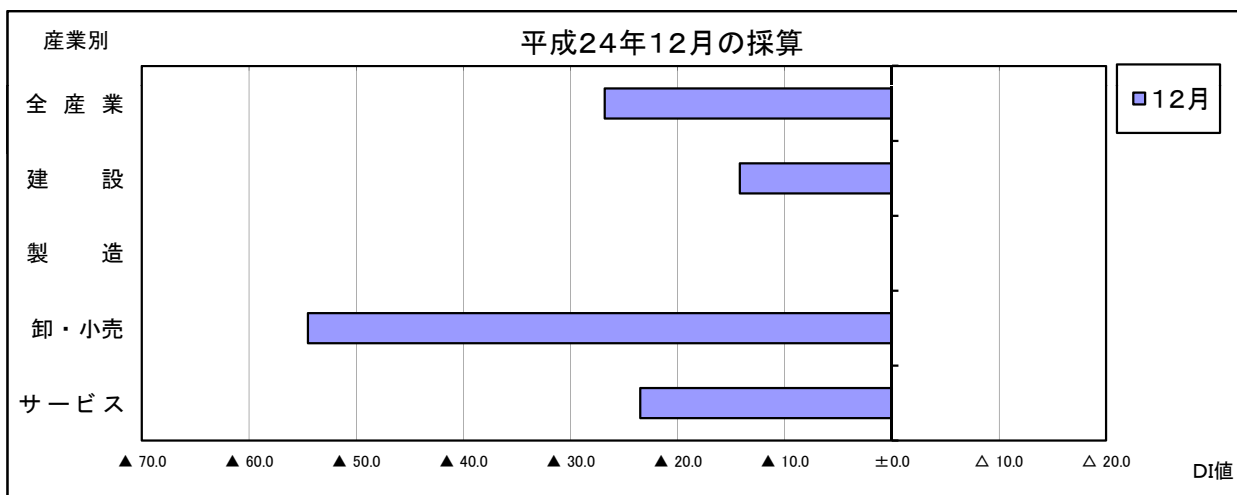
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲27.7)、建設業▲14.2(同▲34.4)、卸小売業▲54.5(同▲61.7)、サービス業▲23.5(同▲25.0)である。特に、製造業はマイナス幅が27.7ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.5(前月水準▲24.7)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲10.5(同▲38.8)、サービス業▲5.8(同▲10.0)である。特に、製造業はマイナス幅が28.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲32.3)、建設業▲17.8(同▲17.2)である。

平成24年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲38.1	▲40.0	▲45.6	▲31.7	▲40.5	▲26.8	▲19.5(▲24.7)
建設	▲28.5	▲41.3	▲44.0	▲22.2	▲34.4	▲14.2	▲17.8(▲17.2)
製造	▲23.5	▲21.0	▲11.7	▲27.2	▲27.7	±0.0	▲10.5(▲38.8)
卸・小売	▲51.4	▲57.1	▲64.7	▲48.5	▲61.7	▲54.5	▲33.3(▲32.3)
サービス	▲41.1	▲23.5	▲43.7	▲20.0	▲25.0	▲23.5	▲5.8(▲10.0)



【平成24年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.4(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。

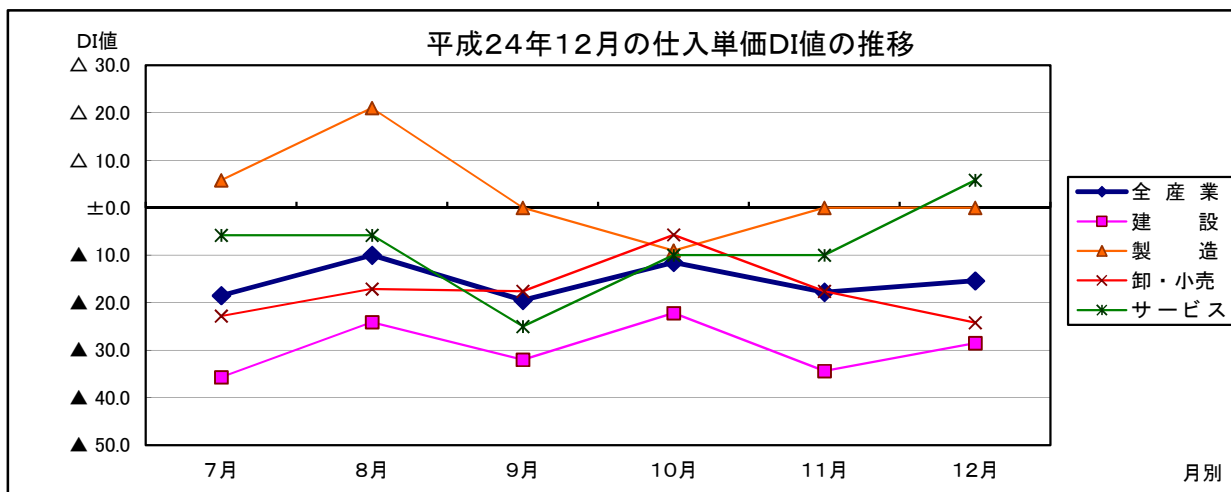
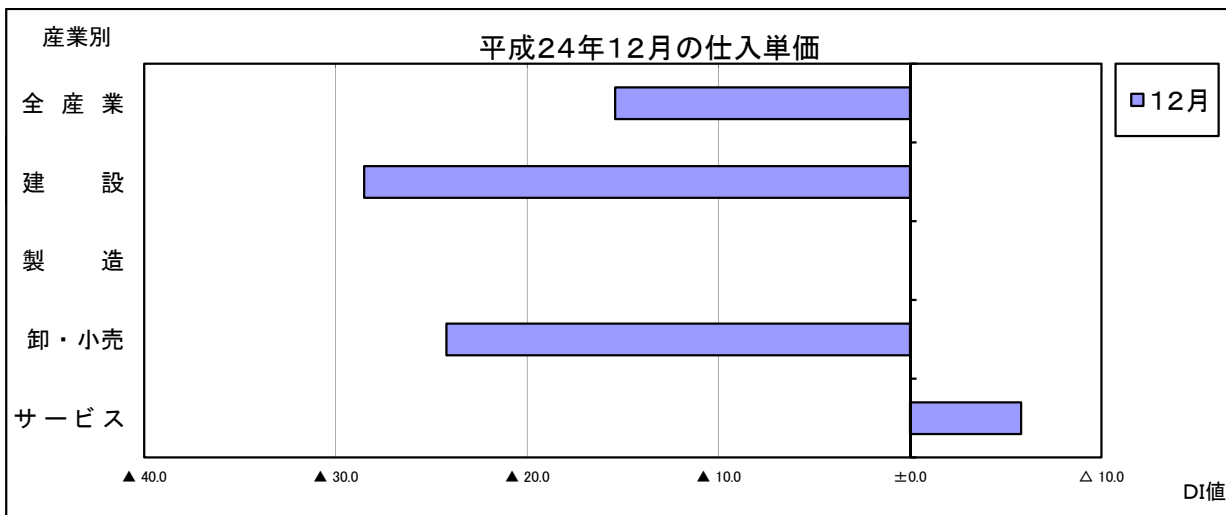
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業5.8(同▲10.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲28.5(同▲34.4)である。変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲24.2(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.3(前月水準▲20.7)となり、マイナス幅が9.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲20.0)、卸小売業▲3.0(同▲17.6)、建設業▲32.1(同▲34.4)、製造業▲5.2(同▲5.5)である。特に、サービス業はマイナス幅が20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成24年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲18.5	▲10.0	▲19.5	▲11.5	▲17.8	▲15.4	▲11.3(▲20.7)
建設	▲35.7	▲24.1	▲32.0	▲22.2	▲34.4	▲28.5	▲32.1(▲34.4)
製造	△5.8	△21.0	±0.0	▲9.0	±0.0	±0.0	▲5.2(▲5.5)
卸・小売	▲22.8	▲17.1	▲17.6	▲5.7	▲17.6	▲24.2	▲3.0(▲17.6)
サービス	▲5.8	▲5.8	▲25.0	▲10.0	▲10.0	△5.8	±0.0(▲20.0)



【平成24年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、1. 0(前月水準2. 9)となり、プラス幅が▲1. 9ポイント縮小した。

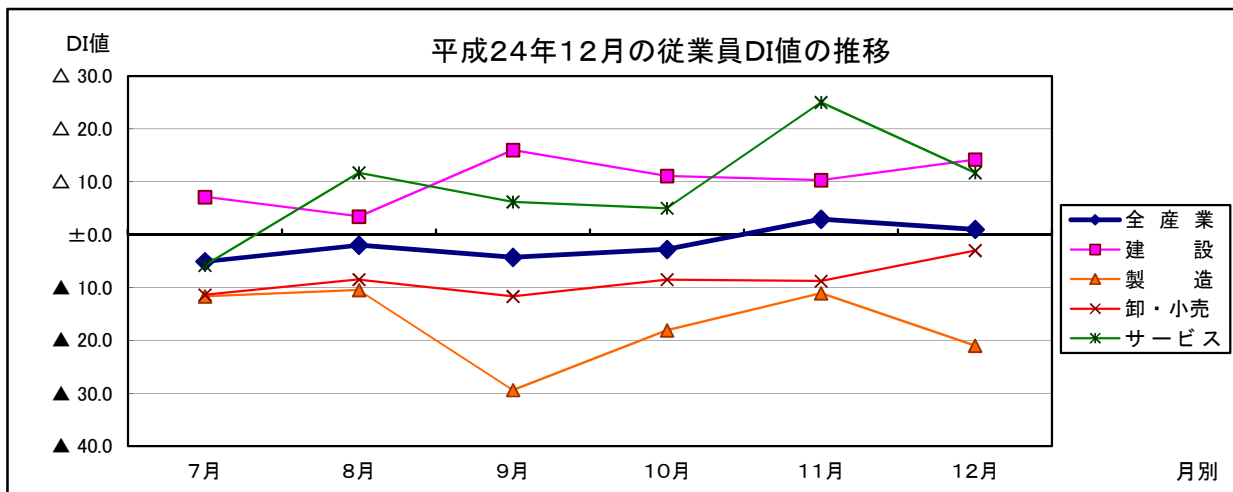
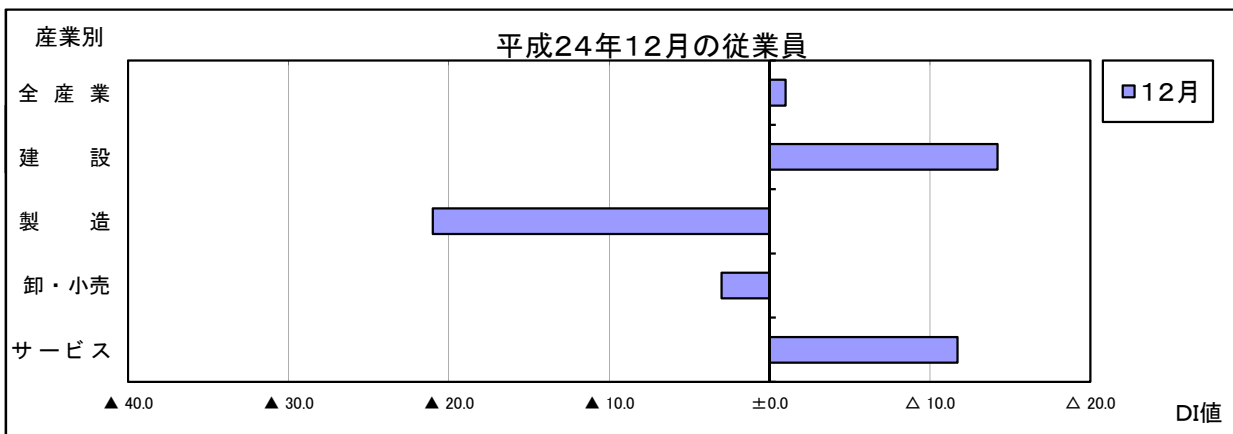
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業14. 2(同10. 3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3. 0(同▲8. 8)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業11. 7(同25. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲21. 0(同▲11. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、4. 1(前月水準7. 9)となり、プラス幅が▲3. 8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業25. 0(同20. 6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業11. 7(同25. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲21. 0(同▲11. 1)、卸小売業▲3. 0(同▲2. 9)である。

平成24年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲5.1	▲2.0	▲4.3	▲2.8	△2.9	△1.0	△4.1(△7.9)
建設	△7.1	△3.4	△16.0	△11.1	△10.3	△14.2	△25.0(△20.6)
製造	▲11.7	▲10.5	▲29.4	▲18.1	▲11.1	▲21.0	▲21.0(▲11.1)
卸・小売	▲11.4	▲8.5	▲11.7	▲8.5	▲8.8	▲3.0	▲3.0(▲2.9)
サービス	▲5.8	△11.7	△6.2	△5.0	△25.0	△11.7	△11.7(△25.0)



【平成24年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.3(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が7.5ポイント縮小した。

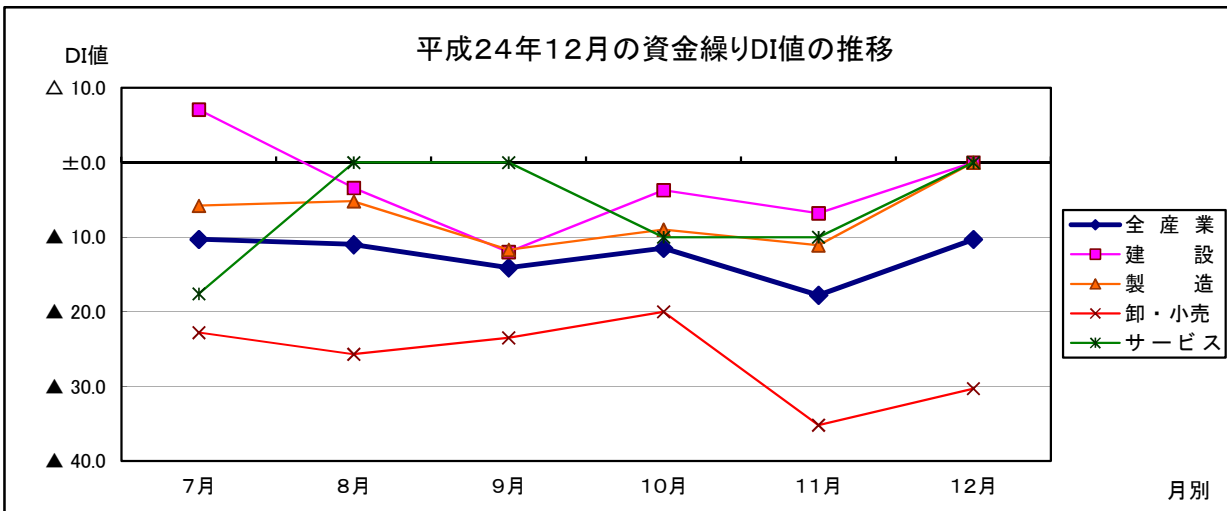
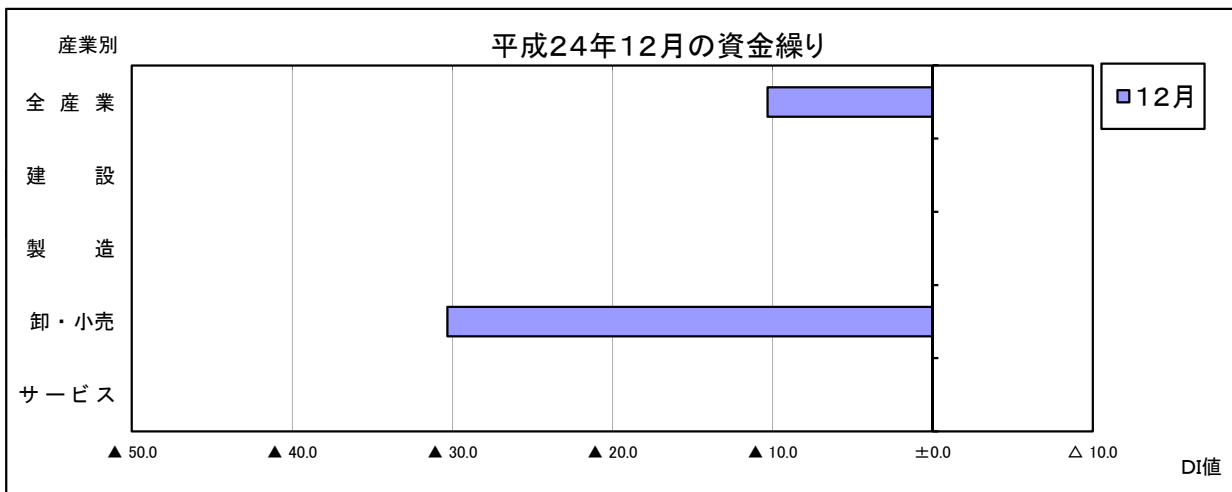
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲11.1)、サービス業±0.0(同▲10.0)、建設業±0.0(同▲6.8)、卸小売業▲30.3(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.4(前月水準▲13.8)となり、マイナス幅が▲2.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲10.5(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5.8(同±0.0)、建設業▲7.1(同▲3.4)、卸小売業▲33.3(同▲29.4)である。

平成24年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲10.3	▲11.0	▲14.1	▲11.5	▲17.8	▲10.3	▲16.4(▲13.8)
建設	△7.1	▲3.4	▲12.0	▲3.7	▲6.8	±0.0	▲7.1(▲3.4)
製造	▲5.8	▲5.2	▲11.7	▲9.0	▲11.1	±0.0	▲10.5(▲16.6)
卸・小売	▲22.8	▲25.7	▲23.5	▲20.0	▲35.2	▲30.3	▲33.3(▲29.4)
サービス	▲17.6	±0.0	±0.0	▲10.0	▲10.0	±0.0	▲5.8(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.6	▲ 18.5	▲ 26.8	▲ 19.5	▲ 15.4	▲ 11.3	△ 1.0	△ 4.1
建設	△ 3.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 17.8	▲ 28.5	▲ 32.1	△ 14.2	△ 25.0
製造	▲ 5.2	▲ 26.3	±0.0	▲ 10.5	±0.0	▲ 5.2	▲ 21.0	▲ 21.0
卸・小売	▲ 42.4	▲ 30.3	▲ 54.5	▲ 33.3	▲ 24.2	▲ 3.0	▲ 3.0	▲ 3.0
サービス	▲ 41.1	▲ 5.8	▲ 23.5	▲ 5.8	△ 5.8	±0.0	△ 11.7	△ 11.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.7	▲ 20.6	▲ 10.3	▲ 16.4
建設	▲ 14.2	▲ 14.2	±0.0	▲ 7.1
製造	±0.0	▲ 15.7	±0.0	▲ 10.5
卸・小売	▲ 54.5	▲ 36.3	▲ 30.3	▲ 33.3
サービス	▲ 5.8	▲ 5.8	±0.0	▲ 5.8

【平成24年12月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設	工事量・売上ともに増加しているが利益は思ったほどの増加無し。まだまだ上向きムードがないため来年に期待している	工事増加 利益横ばい 先行き期待	電気工事業
	工事完成が多いので資金繰りは良好です 仕事量は増加しているが、受注単価は変わらず	資金繰り良好 工事増加 受注単価横ばい	一般土木建築工事業 塗装工事業
	施工件数、規模ともに前年と変わらないが単価が下がっているため売上高減少となっている。施工業者職人不足が続き来年1月からの物件の段取りに追われている。不況の影響で会社を清算、整理、転職した結果の人手不足、消費税値上げ前の駆け込み需要の影響からの忙しさと思われる。単価日程等が合わず断った現場の再度の依頼も数件出ているがやはり業者不足からと思われる	単価下落 売上減少 人手不足 消費税増税 駆け込み需要 業者不足	その他の職別工事業
	気温水温が低く推移しているため、12月のガス販売量は前年比4.7%UP	気候の影響 販売量増加	ガス業
	政権が代わり景気対策の上でどのように変わるか期待します	政権交代 景気対策 先行き期待	塗装工事業
	畳を新年に向けて新しくしたいというお客様が多くおり、個人向けの需要が拡大。原材料価格が上がり続けているのが悩みだが多くのお客様に畳のよさをお届けしたい	需要増加 原材料値上がり	内装工事業
	政権交代し良くなるのではと期待している	政権交代 先行き期待	その他の職別工事業
	一時期は幸い受注が重なったが、現時点では先行きが見えない状況である。好転にいつ転じるか予想がつかない状況にある	受注増加 先行き不透明	その他の機械・同部品製造業
製造	決算が9月だが前々期と比較してみると売り上げが少々ですが向上しています。内容的にも改善した部分もあり、仕入外注の部分の工夫によって粗利の率をあげ運転資金の新規借り入れを押さえ、現在までの借り入れ返済を優先させました。借入金による支払いはその場は楽ですがその後には必ず苦が来ています。健全な経営を目標に努力を続けていきたいと思えます	売上増加 財務改善	印刷業
	取引先企業による海外での生産計画が加速している中受注量の減少が見られる。新政権での内需拡大への経済対策に期待したい	海外生産増加 受注減少 政権交代 先行き期待	一般産業用機械・装置製造業
	一部材料仕入れ単価の下落が始まったが下げ幅が少ないためコスト削減にはなかなかつながらない。値上げ前までは戻っていない。また、求人を出しているが応募者が少ない	仕入単価下落 求人減少	紙製容器製造業
	業界的には前倒しのバーゲンを実施するところが多くなっているが、生産調整によりバーゲン対応商品が集まりづらくなっている。当社の高額商品もセール前は全く消化できなかったが割引した所単価2~4万のものがだいぶはけた。高額商品はやはりバーゲン待ちという感じ	セール前倒し 生産調整	婦人・子供服小売業
	冬物衣料の動きはよくない。寒い冬にはなったが売れているものは小物が中心。クリスマス関連では食品はなんとか昨年をクリアした程度。日程では3連休のため家庭でクリスマスにはぴったりだったはずだが振るわず	冬物衣料不調 小物好調 クリスマス商戦 売上不振	その他の各種商品小売業
	昨年、柏レイソル優勝セールを開催したこともあり、特価品売上が減少。ただ、クリスマス3連休などは曜日並びも良く、売上が前年を上回る日が多かった。12月度全体では、前年△1.5で推移。	セール 特価品売上減少 売上増加	百貨店
	12月度は寒さが厳しくなったことからダウンやニットなど防寒物とアウターの動きが好調であったことに加え、昨年は10日から開催したイベントを今年は5日から開催したことも後押しし売上高は好調に推移した。また、例年より冷え込みが厳しいせいもあり、平日の入店客数が増加、キレイ目系なトレンドの流れから会社員などの取り込みも図れた。クリスマス商戦は直前に集中し22日(土)~24日(月・祝)の3日間対比で102.2%という結果であった。月末、お正月商戦では館内の流動を図り買い廻りを高め	気候の影響 冬物衣料好調 売上増加 クリスマス商戦 お正月商戦	その他の各種商品小売業

【平成24年12月の業種別業界内トピックス】

卸小売	政権交代があり、従来の自民党に戻り少々景気が戻っているが、長期的にはデフレ経済の中でインフレが起こるとい難しい状況が待ち受けている気がする。地元でもデフレが起こる理由をみんなが考え、新たな取り組みが必要だと痛切に感じている。	政権交代 景気回復 デフレ	各種食料品小売業
	クリスマス商戦は例年と比べ予約数が減り当日売りが増えたが客単価は減り厳しい結果になった	クリスマス商戦 予約数減少 厳しい業況	菓子・パン小売業
	クリスマスは母が日照不足や寒冷で出来が悪く高騰、また卵も例年よりかなり高かった	クリスマス商戦 材料高騰	菓子・パン小売業
	12月に入り冷え込みが厳しい日が続き野菜や果実では産地からの入荷減少や年末に伴う取引増加もありますが一物品目では単価高が見られます。総体的には前年並みかやや減少傾向で推移しています。1年の中でも活気付く年末の市場取引であります。また忘年会新年会用食材の需要が伸びる時期となる要因もあります。また昨今の政局の変化など景気向上対策から期待も望まれます。少しでも上向いて取引拡大が出来るよう努力したい。	気候の影響 青果物入荷減少 需要増加 政権交代 先行き期待	食料・飲料卸売業
	先月販売価格を値上げた分売上高は増加したが粗利はかなり悪い。10月くらいまでの気候の暖かさと器具の販売数伸び悩みが冬のいまでも足を引っ張っている。	販売価格値上げ 売上増加 粗利悪化 気候の影響	燃料小売業
	12月に入ってもクリスマスや暮れのムードは見られず例年になく景気の停滞を感じます	景気の停滞	花・植木小売業
	エレベータ事故が増え、注目度が上がったため管理意識も高まっているが、売上増につながるかはわからない。問い合わせは増えている。改修工事改善が多くなるのではと期待する	事故増加 管理意識の高まり 改修工事	一般機械器具卸売業
サービス	昨年と比較すると金土曜日が悪い。宴会単価が下がっている。予約時の人数が直前確認ではほとんど減少する等。	宴会単価減少	酒場・ビヤホール
	新しい政権の経済対策に期待したい。業界としては低単価傾向が依然として続いている	政権交代 先行き期待 低単価傾向	食堂・レストラン
	全国の婚姻組数は緩やかな減少傾向ではあるが来館者数の現象をくいとめない来年度は厳しくなりそう	婚姻件数減少	冠婚葬祭業
	忘年会の受注は、件数、売り上げ共に昨年並みに進捗、宿泊は、競合他社(フレッサイン千葉柏)の影響により、一室単価、稼働共に減少。料飲テナント情報によると、個人消費の減少による一人単価が落ちているようである。	宴会受注横ばい 宿泊稼働減少 個人消費減少 単価下落	ホテル
	従業員不足の為生産量が増えない	従業員不足 生産量横ばい	食堂・レストラン
	お客様の減少傾向は止まってきました。価格は相変わらず下落していますが、お客様の購買意欲はありますが契約までの期間は慎重になっており長引いています	客数減少下げ止まり 価格の下落	不動産管理業
	政権交代でいよいよ消費税アップが具体的に近づくのでとりあえずは特需に期待しています	政権交代 消費税増税 特需	不動産賃貸業
今年もわずかですが年度末に向けた工事がいくつか芽が出てきた感じですが、ただ単価が下落して、忙しくても利益が出ていないのが現状	単価下落	ソフトウェア業	

◎政権交代

- ・ 政権が代わり景気対策の上でどのように変わるか期待します 塗装工事業
- ・ 政権交代し良くなるのではと期待している その他の職別工事業
- ・ 取引先企業による海外での生産計画が加速している中受注量の減少が見られる。新政権での内需拡大への経済対策に期待したい 一般産業用機械・装置製造業
- ・ 政権交代があり、自民党に戻り少々景気が戻っているが、長期的にはデフレ経済の中でインフレが起こるとい難しい状況が待ち受けている気がする。地元でもデフレが起こる理由をみんなが考え、新たな取り組みが必要だと痛切に感じている。 各種食品小売業
- ・ 昨今の政局の変化など景気向上対策から期待も望めます。少しでも上向いて取引拡大が出来るよう努力したい。 食料・飲料卸売業
- ・ 新しい政権の経済対策に期待したい。業界としては低単価傾向が依然として続いている 食堂・レストラン
- ・ 政権交代でいよいよ消費税アップが具体的になってくるのでとりあえずは特需に期待しています 不動産賃貸業

◎売上・受注増加

- ・ 工事量・売上ともに増加しているが利益は思ったほどの増加無し。まだまだ上向きムードがないため来年に期待している 電気工事業
- ・ 気温水温が低く推移しているため、12月のガス販売量は前年比4.7%UP ガス業
- ・ 決算が9月だが前々期と比較してみると売り上げが少々ですが向上しています 印刷業
- ・ 昨年、柏レイソル優勝セールを開催したこともあり、特価品売上が減少。ただ、クリスマス3連休などは曜日並びも良く、売上が前年を上回る日が多かった。12月度全体では、前年△1.5で推移。 百貨店
- ・ 先月販売価格を値上げした分売上高は増加したが粗利はかなり悪い。 燃料小売業

◎クリスマス商戦

- ・ 冬物衣料の動きはよくない。寒い冬にはなったが売れているものは小物が中心。クリスマス関連では食品はなんとか昨年をクリアした程度。日程では3連休のため家庭でクリスマスにはびったりだったはずだが振るわず その他の各種商品小売業
- ・ 12月度は寒さが厳しくなったことからダウンやニットなど防寒物とアウターの動きが好調であったことに加え、昨年は10日から開催したイベントを今年は5日から開催したことも後押しし売上高は好調に推移した。また、例年より冷え込みが厳しいせいもあり、平日の入店客数が増加、キレイ目系なトレンドの流れから会社員などの取り込みも図れた。クリスマス商戦は直前に集中し22日(土)~24日(月・祝)の3日間対比で102.2%という結果であった。 その他の各種商品小売業
- ・ クリスマス商戦は例年と比べ予約数が減り当日売りが増えたが客単価は減り厳しい結果になった 菓子・パン小売業











平成24年12月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.7に対し、「CCI-LOBO」が▲34.1で柏の方がマイナス幅が10.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業・建設業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.6に対し、「CCI-LOBO」が▲25.4で、柏の方がマイナス幅が3.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・建設業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.8に対し、「CCI-LOBO」が▲28.7で、柏のほうがマイナス幅が1.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・建設業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.4に対し、「CCI-LOBO」が▲17.7で、柏の方がマイナス幅が2.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・建設業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が1.0に対し、「CCI-LOBO」が0.7で、柏の方がプラス幅が0.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.3に対し、「CCI-LOBO」が▲17.8で、柏の方がマイナス幅が7.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業・建設業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で、10ポイント以上悪い。











平成24年12月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.7	 14.2	 ±0.0	 54.5	 5.8
CCI LOBO	 34.1	 22.6	 35.9	 41.9	 30.9


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.6	 3.5	 5.2	 42.4	 41.1
CCI LOBO	 25.4	 12.4	 29.5	 31.2	 26.3


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.8	 14.2	 ±0.0	 54.5	 23.5
CCI LOBO	 28.7	 20.9	 31.8	 30.3	 28.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.4	 28.5	 ±0.0	 24.2	 5.8
CCI LOBO	 17.7	 27.6	 12.8	 16.4	 18.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.0	 14.2	 21.0	 3.0	 11.7
CCI LOBO	 0.7	 4.7	 6.3	 3.2	 5.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.3	 ±0.0	 ±0.0	 30.3	 ±0.0
CCI LOBO	 17.8	 13.3	 20.4	 19.4	 17.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成24年12月13日～19日

調査対象：全国の417商工会議所が3096業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは悪化、先行きは慎重な見方が続く

12月の全産業合計の業況DIは、34.1と、前月から3.0ポイントの悪化。先月中旬からの円安傾向は好材料であるものの、中国向け輸出低迷が続く製造業は幾分回復するも低水準で推移。また、今冬の賞与減少に伴う個人消費の冷え込みによる影響に加え、商品の多様化や低価格化により新規顧客の取り込みを図る大手チェーン店の攻勢に晒されている小売業・飲食業など、地域の中小企業を取り巻く環境はさらに厳しさを増している。

先行きについては、先行き見通しDIが35.1(今月比1.0ポイント)と、ほぼ横ばいの見込み。最近の円安・株高傾向に加え、政府による経済対策や中国経済の回復に対する期待感がみられるものの、電力料金の値上げ、所得の減少に伴う消費マインドの低迷など、楽観できないことから、先行きは慎重な見方が続く。

産業別にみると、業況DIは、製造業は改善、その他の

4業種は悪化した

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「耐震や省エネのリフォーム工事は堅調なもの、資材や労務費の負担が重く、厳しい状況が続いている」(一般事業)、「継続雇用制度により従業員の平均年齢が上昇、会社を継続させていくためには若手の新規採用が課題」(一般事業)、「取引先が更なるコストダウンを要請、採算が合わないため受注を見送っている」(左官事業)

【製造業】「クリスマス向け商品が堅調で、売上は好転」(菓子製造販売業)、「中国向け製品の売上減少が続いているものの、輸出割合が高い自社にとって最近の円安は好材料」(鉄器製造業)、「中国への輸出低迷による取引先の減産対応が続いており、自社の業績に大きな影響が出ている」(自動車部品製造業)

【卸売業】「低価格化が進むネット販売に対抗するため、自社も販売価格を下げているが、このため利益が確保できない」(事務用機械器具卸小売業)、「米の仕入価格が上昇しており、採算が悪化している」(米穀類卸売業)、「取引先の洋菓子製造がピークを迎えているが、原材料の小麦粉価格が上昇、大きな打撃を受けている」(小麦粉等卸売業)

【小売業】「クリスマスに向け、アクセサリーや雑貨が動き始めている。冬物衣料や防寒用品も好調に推移」(百貨店)、「近隣にドラッグストアとディスカウントショップが相次いで出店、競争が一層激化している」(総合スーパー)、「年末商戦に向けてイベント等を開催、来店者数は増加しているものの、客単価が低く、売上は伸び悩んでいる」(商店街)

【サービス業】「トンネル事故の影響により、高速道路を利用した観光客が減少。売上に響いている」(飲食店)、「今冬の賞与減少に伴い、忘年会・新年会を敬遠するケースが多く、影響は大きい」(飲食店)、「業況が悪い中で、来年度からの電力料金値上げに伴う負担増が不安」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲25.2	▲25.8	▲18.1	▲23.6	▲43.1	▲15.6
8月	▲23.8	▲19.6	▲21.9	▲27.3	▲34.3	▲16.6
9月	▲26.6	▲16.6	▲27.8	▲19.3	▲40.3	▲22.5
10月	▲32.6	▲21.5	▲33.8	▲29.1	▲45.9	▲27.6
11月	▲31.1	▲17.9	▲37.6	▲26.1	▲39.9	▲27.9
12月	▲34.1	▲22.6	▲35.9	▲38.9	▲41.9	▲30.9
見通し	▲35.1	▲25.4	▲35.7	▲32.3	▲42.3	▲35.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI